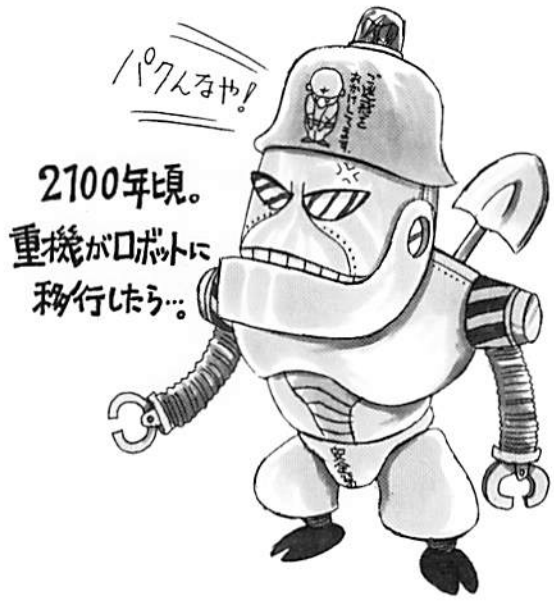


いまどきの歴史

一番新しい日本のページ

重機泥棒!
ピンチの中にもチャンスあり
世の中は商魂たくましい企業を望む



建設現場に置かれているパワーショベル窃盗が京滋で相次ぎ、被害は年間30台以上にもなっている。これまで窃盗団が警察に何度か逮捕されたが、いまだ被害は続いている。盗品は車体番号を偽造され、格安で売られることが多く、中には海外に売りだされているものもあるという。4年前から業者で対策協議会を結成し、工事現場の封鎖を徹底しているがあまり効果なし。さらに「①自動車用防犯ブザーを改良した防犯装置の開発」「②エンジン用の配線を切って現場を離れる」「③二重のカギをつける」などの自衛手段を呼びかけるとともに、④保険会社と交渉して重機対象の盗難保険もつくった。

ここで注目したいのは一連の盗難騒ぎの中にビジネスチャンスを見いだした保険会社。不況に嘆くばかりでなく、世の中に起きている事柄に目を向け、社会に貢献する企業がもっと増えて欲しいものだ。機材レンタル会社も工事現場用の防犯カメラ貸し出しにもっと積極的になればいいのにね。



3月某日、中京区某所で打合せの折、相手先のビル前に出してあったダンボールが「ぞつり」紛失していた。そういえば怪しいな2人組を見たような気がする…。実話である。以外と身近で盗難が行われている。



文◎大塚 祐希
1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライオン系「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと酔ってしまふ」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。

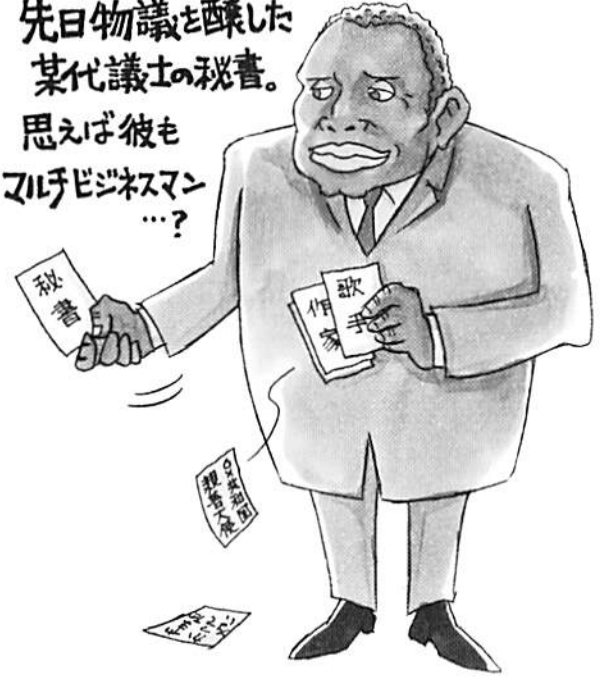


イラスト◎両口 和史
1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス軍、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日常。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi

雇用が変わる
ワークシェア導入を促進するためには
働く側の意識改革も必要なのでは?

失業率が日増しに悪くなり、さらに有効求人倍率は跳ね上がる一方。雇用機会がどんどん少なくなっている。しかし、地域ごとに雇用機会をなんとか創出しようという動きが表れている。ワークシェアは労働時間短縮により、より多くの人を雇用するというものだが、このワークシェアを阪神大震災以来厳しい雇用環境が続く神戸では中小企業を中心に推進している。また、滋賀でも今年度からワークシェアに取り組む企業が増えてくるようだ。
一方、京都に本社を置くロームは大学卒の新生卒を契約社員として雇用するという方針を打ち出すなど、雇用形態に変化が見られ始めた。近い将来、日本でも複数の仕事をかけ持ちするビジネスマンや、ターンオーバー制で仕事を増える人も増えるかも知れない。副業をよしとしない日本人特有の美徳もそろそろ通用しなくなってきた。多彩な才能を持つ人は、さまざまな方面で能力を発揮し、たくましく生きるビジネスマンを目指すのが賢明なのかも。

先日物議を醸した
某代議士の秘書。
思えば彼も
マルチビジネスマン
…?



ゴミ泥棒!?

「出したらおしまい」じゃダメ
地域のゴミにももっと関心を!

古新聞やアルミ缶など、リサイクルゴミとして回収されるべき資源ゴミを横取りしてリサイクル業者に売り飛ばす輩が増えている。「ゴミなんやから、ええやんか」という人もいるかも知れないが、それは大きな間違い。回収された資源ゴミの量に応じて、地域にお金として還元されているのだから。金沢市ではとうとう窃盗罪として逮捕者が出ている。また、埼玉のある地区では町内会が自主的に資源ゴミ窃盗を防ぐため夜回りも行っているとか。筆者も町内のアルミ缶が盗まれているのを見たことがある。ビールのアルミ缶排出量ナンバーワンとして地域に貢献している筆者としては腹が立つのだが、恥ずかしながらゴミ泥棒に居直られるのが恐くて注意することができなかった。ゴミ泥棒が悪いのは当たり前だけど、鍵付きの資源ゴミ回収ボックスを設置したり、簡単に盗まれないように対策するのも必要だと思う。「ペットボトル用」とか「アルミ缶用」「スチール缶用」に分かれていれば、全国と比較して立ち後れが否めない京都のゴミ分別も効率良く行なわれて、一挙両得だと思えるのだが…?